

# 第十二回運営推進会議アンケート

## ◎デイサービスと在宅介護について

この書面における参加者は、デイサービスセンターえがお・寺島区・地域包括支援センターよしだ・糸魚川市役所福祉事務所の4拠点となります。以下、2～4の項目につきまして、それぞれのご意見をご記入下さい。特にご意見をお願いしたい拠点につきましては、事項の最後に明記させて頂きました。お手数をおかけしますが、宜しくお願い致します。

### 1、利用者様数の推移について

昨年9月から本年2月までの利用者数の推移は1日平均11.8名となっており、毎年のことではありますが、昨年12月頃から越冬入所や入院等により利用登録者数の減少に加え、コロナ感染者の増加に伴い利用を自粛されるご家族も増えたこともあって、今年に入ってから全体的に低調に推移しております。

### 2、当施設を利用されるにあたって（令和4年3月22日現在）

当施設を利用されるにあたっては、利用されるまで元気で一度も介護サービスを利用されたことがなかった方、退院されて自宅に戻ることになった方、利用していたサービス又は施設が合わなかった方など様々な利用者様がいらっしゃいますが、あくまでご家族並びにショートステイや訪問ヘルパー等の介護サービスのサポートが前提となっているケースが多く、デイサービスのみの利用者様は徐々に減少してきている実態があります。

様々な事情がありますが、結論としては、加齢に伴う利用者様ご本人のADL及び認知機能の低下と、ご家族様の介護負担によるところが大きいと感じます。シルバーカー歩行可能だった方が車椅子になったり、デイサービスとヘルパーの併用だった方がショートステイも追加利用されるようになったりといった具合です。当施設においては、特にショートステイを利用される方が増え、今週はデイサービス、来週はショートステイといったような状況が散見されます。地域包括支援センターよしだ様、当施設のみならず、糸魚川においてはこうした状況が増えているのでしょうか。年々当施設の利用登録者数は減少してきており、事業継続を検討しなければならない地点にきているようにも感じます。今後の見通しも踏まえてご回答をお願いします。

( 地域包括支援センターよしだ様 ) ( 令和4年6月9日現在 )

他の通所サービス事業所においても、同じような状況であると予測されます。利用者本人から『コロナに感染すると怖いから、休みます』、『雪がすごいで休みます』と連絡を受けることはありましたが、しばらくすると再開され、完全な利用中止に至るケースは少なかったような印象がありました。

また逆に、コロナ禍でお住まいの地区の地区活動が休止してしまったために、介護保険サービスで通所サービスをご希望される本人・家族もおられました。急な病気やケガはもちろん、些細なことがきっかけで廃用が進むことも多く、入院・入所すればリロケーションダメージも重なり、ADLが低下していくことはほとんど全ての利用者さんに起こり得ること、ある程度仕方がない事と思われると思います。それにより介護者の負担が増し、公的サービスの内容・量を増やすことが必要になります。

機能低下は、色々な要因から起因するもので、やむを得ないこともあります。日頃からの予防や早期発見・対応により、防げるものも多くあり、結果として介護者負担の軽減や介護保険料上昇を抑制することにつながります。

通所サービスのみの利用であっても、他サービスと併用されていても、その中で通所サービスはチーム連携の一員として、特に介護予防・早期発見の取り組みを得意とされているサービスだと思います。『デイサービスに通い始めて元気になって、まだ元気』とか、『早く発見し、教えてもらえたおかげで大事に至らず済んだ』『外に出るのを嫌がっていたけど、今では楽しみにして通っている』等の評価が、地域や関係者へ今よりもっと普及されれば、利用登録者数も増加すると期待できますし、利用者さんの状況変化に対しても、チームとして柔軟により良い支援を継続していただければと期待できます。

地域の大事な資源が存続できないことは残念ですが事業の継続・今後の見通しについての質問には回答しかねます。

### 3、在宅介護におけるご家族様の負担について

当施設においては、利用者の在宅介護を担われている方は、夫・妻・子・子の配偶者・孫といった方がほとんどです。中には高齢独居の利用者様で、ご家族が遠方にいらっしゃる、ご近所さんがサポートに入っているケースもあります。寺島区においても、独居の高齢者への地区サービスのようなことはあるのでしょうか。ありましたら、どのようなサービスなのかお答えいただければ幸いです。

( 寺島区長様 ) ( 令和4年3月22日現在 )

寺島地区においては、高齢者の在宅介護・施設入所・一人暮らしの人達が増加傾向です。家族構成等については、市福祉事務所から個人情報関係上詳しい情報・状況等が知らされておりませんので、区として各々の家庭状況を把握しての

対応をしていないのが実情・実態です（糸魚川地区 14 区も同様のようです）。

区内の高齢者の在宅介護、入院・施設への入所手続については、家族・親戚等が対応している様子なので、実態・状況については区として把握しておりません。高齢者（一人暮らし含む）の日常については、区の民生員と市福祉事務所と連絡・情報を共有して取組みをしております。区が直接何らかの対応を行っておりません。区として、冬期間に高齢者一人暮らし宅の道路除雪、デイサービス車用の玄関入り口除雪、ヘルパーの方が駐車できる様に降雪時の除雪対応取組みを行っています（家族・本人からの申込みによる）。

当施設における問題点として、同居家族において介護疲労による在宅介護の一部放棄や認知症の利用者様への厳しい口調といったことがあります。介護の期間が長ければ長くなる程そういったことが増えているように感じます。

一方で当施設のようなデイサービスにおいては、せいぜい週 2～3 回の数時間のみの介護なわけで、それ以外のほとんどの時間をご家族の方が見ていることとなります。デイサービスやショートステイの利用がそのままご家族様の介護休みということになるのですが、それでも在宅介護に限界を感じられるご家族様も当然いらっしゃる、グループホームや老人ホームへの入所希望を出されているご家族様もあり、突然入所が決まりデイサービスが利用中止になるパターンもよくあります。そこでご家族様の介護負担軽減について、デイサービスとしてできることは皆無ですので、糸魚川市として何か検討、試行中のものはありますか。ご回答願います。

#### （ 福祉事務所様 ）

##### ① サービス利用の組合せ・推移について

在宅で介護サービスを利用されている方について、心身の状態が低下するにつれて、複数のサービスを組み合わせなければならない傾向は、共通していると認識しています。

市全体の動きをみますと、令和元年度頃から保険給付費や認定者数の伸びが頭打ち傾向もしくは減少傾向となっております。

給付費に関しては、特に通所型において、2 か年続きの大雪やコロナの影響が大きく出ております。

認定者数に関しては、当市でも団塊の世代（現在 72～75 歳）の人口が他の年齢区分よりも多く、令和 7 年（2025 年）には、この年代の方々が全て 75 歳以上となります。

国の調査では、70 歳以降の 5 歳区分で認定率は、約 6%⇒12%⇒28%⇒50% と高くなっており、今後再び介護サービスが必要となる人が増加に転じる可能性が高く、現在のサービス提供水準を維持・確保していくことが重要であると認

識しております。

② 家族の介護負担軽減について、市として検討・試行中のもの

第8期介護保険事業計画（R3～5）において、認知症グループホーム（18人）の開設を見込み、現在公募により事業者の選定手続きを進めているところです。

また、計画策定時のアンケート調査では、53%の方が介護サービスを受けながら自宅に住みたいと回答しており、介護が必要な方やご家族の状況により、施設や入居系に偏ることなく、在宅サービスも含めた多様なサービスを提供していくことが重要であると考えております。